

【原子力ワンポイント】広く利用されている放射線

(135) 放射線の健康影響－東京都民と福島県民で認識にズレ(その2)

本コラムでは前回、東京電力福島第一原子力発電所事故による「放射線の健康影響」について、三菱総合研究所が東京都民にアンケート調査した結果を紹介しました。今回は、福島県が行っている県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果に基づいて、福島県民が今、「放射線の健康影響」についてどのように感じているのか、探ってみましょう。

ゆりちゃん：福島県が行っている県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」って何？

タクさん：福島県は現在、福島県立医科大学「放射線医学県民健康管理センター」に委託して、県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関するアンケート調査」を進めています。この関連情報を発信する県のサイトⁱに、本調査の実施目的が記載されており、「2011年3月11日発生の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、放射線への不安、避難生活、財産の喪失及び恐怖体験等により、精神的苦痛や心的外傷（トラウマ）を負った県民のこころの健康度や生活習慣を把握し、適切なケアを提供することを目的としている」と説明されています。本調査で対象となる方は、事故が起こった2011年3月11日から2012年4月1日までに避難区域等（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、伊達市の一部）に住居登録しており、各調査年度の4月1日時点で避難区域等に住民登録をしていた方です。加えて、基本調査ⁱⁱの結果、必要と認められた方です。

ゆりちゃん：「放射線の健康影響」についてのアンケート調査では、具体的に、どんな質問がされたの？

タクさん：まずは表1を見て下さい。県民健康調査で使われた調査票（一般用）の見本から、「放射線の健康影響」に関する質問事項を抜粋したものです。見て分かる通り、質問の一つ目は「現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害（例えば、がんの発症など）がどのくらい起こると思いますか？」、そして二つ目は「現在の放射線被ばくで、次世代以降の人（将来生まれてくる自分らの子や孫など）への健康影響がどのくらい起こると思いますか？」です。ところで、理科好きのゆりちゃんには、基礎知識としてぜひとも覚えておいてほしいのですが、専門家は、一つ目の影響を「放射線の遺伝『的』影響」、二つ目の影響を「放射線の遺伝『性』影響」、と区別して呼んでいますⁱⁱⁱ。

ゆりちゃん：あれ？三菱総合研究所（三菱総研）が前回の本コラムで東京都民に同じ質問をしていなかった？

タクさん：よく覚えていましたね。でも質問をよく見ると「福島の方々に（とっては）」と断っていました。きっと、三菱総研は同じ質問をして、福島県民と都民の「放射線の健康影響」に関する認識の違いを明らかにして、都民の方々に「放射線の健康影響」について理解を深めてもらう施策を提言しよう、と考えているのではないのでしょうか。

ゆりちゃん：それでは、福島県の「放射線の健康影響」に関するアンケート結果はどうだったの？

タクさん：次に表2を見て下さい。福島県が、毎年、成人の方々を対象にして行っている「遺伝『的』影響」および「遺伝『性』影響」に関するアンケート調査の結果です。各行の一行目は実施年度です。最終行の最も新しい年度（平成28年度）に注目してね。遺伝『的』影響の生じる可能性が「非常に高い」「高い」と答えた方は「全体の32.5%」、また、「遺伝『性』影響」の生じる可能性が「非常に高い」「高い」と答え

ⁱ 「<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/kenkocoyosa-kokoro.html>」

ⁱⁱ 福島第一原子力発電所事故時、福島におられた全ての県民の方の健康管理の基礎となるデータ（例えば個人の外部被ばく線量など）を得るために行われた調査（例えば震災当時における行動の記録など）

ⁱⁱⁱ 放射線医学総合研究所名誉所員 Ph.D. 安田徳一 著「放射線の遺伝影響」ポピュラー・サイエンス 287

た方は「全体の 36.1%」です。でも、事故直後の 2011 年度（平成 23 年度）では、遺伝『的』影響は 48.1%、また、遺伝『性』影響は 60.2%でした。ずいぶん数値に違いがあるでしょう。福島第一原子力発電所事故の初期においては、県民の多くが「放射線の健康影響」に不安を感じていたのでしょうかね。福島第一原子力発電所事故から約 6 年が経過して、放射線影響についての理解が進み、不安を感じる人が目に見えて少なくなったことを示唆していると思います。一方、都民の場合はどうだったでしょうか？その結果は、前回の本コラムで紹介しました通り、2017 年 8 月の時点において、遺伝『的』影響の生じる可能性が「非常に高い」「高い」と答えた方は「全体の 53.5%」、また、遺伝『性』影響の生じる可能性が「非常に高い」「高い」と答えた方は、「全体の 49.8%」でした。2011 年度の福島県民の方の回答に近い数値ですね。この結果を見る限り、現在の都民の「放射線の健康影響」に対する認識は、福島県民と大きくずれていると言わざるをえません。それでは三菱総研は、どのようにしてこの溝を埋めようと考えているのでしょうか。興味深いので次回、その内容を探ってみましょう。

(原産協会・人材育成部)

表 1. 放射線影響についての質問票

放射線のような、私たちの五感では感じることでできないものが原因となった災害では、その健康へのリスクをどのように認識するかが、心の健康状態に大きく影響すると言われています。放射線の健康への影響についてあなた自身はどのように感じて(考えて)いますか。最も当てはまると思う数字を○で囲んでください。

質問内容	回答	可能性は極めて低い	可能性は低い	可能性は高い	可能性は非常に高い
1 現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害(例えば、がんの発症など)がどのくらい起こると思いますか。		1	2	3	4
2 現在の放射線被ばくで、次世代以降の人(将来生まれてくる自分の子や孫など)への健康影響がどれくらい起こると思いますか。		1	2	3	4

表2. 放射線による健康影響に関する福島県民の意識調査結果(平成23~28年度)
(福島県が事故後毎年実施している「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果より作成)

質問年度	(1) 現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害(例えば、がんの発症など)がどのくらい起こると思いますか？			
平成23年度	13,345 (22.1%)	17,958 (29.8%)	13,906 (23.1%)	15,094 (25.0%)
平成24年度	13,980 (30.8%)	13,566 (29.9%)	9,195 (20.2%)	8,692 (19.1%)
平成25年度	10,809 (27.9%)	12,557 (32.4%)	8,365 (21.6%)	6,979 (18.0%)
平成26年度	12,879 (36.0%)	11,664 (32.6%)	6,522 (18.2%)	4,742 (13.2%)
平成27年度	12,568 (34.4%)	12,025 (32.9%)	6,934 (19.0%)	5,043 (13.8%)
平成28年度	10,910 (34.8%)	10,253 (32.7%)	5,793 (18.5%)	4,388 (14.0%)

質問年度	(2) 現在の放射線被ばくで、次世代以降の人(将来生まれてくる自分の子や孫など)への健康影響がどれくらい起こると思いますか？			
平成23年度	9,174 (15.2%)	14,827 (24.6%)	15,241 (25.3%)	20,978 (34.9%)
平成24年度	10,779 (23.9%)	12,685 (28.0%)	10,475 (23.2%)	11,241 (24.9%)
平成25年度	8,218 (21.4%)	11,705 (30.5%)	9,951 (25.9%)	8,508 (22.2%)
平成26年度	10,273 (29.2%)	11,501 (32.7%)	7,776 (22.1%)	5,577 (15.9%)
平成27年度	10,436 (29.0%)	11,987 (33.3%)	7,903 (22.0%)	5,619 (15.6%)
平成28年度	9,532 (31.0%)	10,142 (32.9%)	6,424 (20.9%)	4,685 (15.2%)

■ 可能性は極めて低い
 ■ 可能性は低い
 ■ 可能性は高い
 ■ 可能性は非常に高い

* 数値は有効回答数、括弧書きはその割合(%)